

なぜ若者は「自分探し」をするのか。

自分が何をしたいのか自問自答はいつの時代でもある。近頃のように彼もあいつもとなると何かが違うな、と思う。年寄りの繰り言ではないと思いたい。ある講演会で、そもそも自分の事がよくわからないのに「探せば石ころのように見つかるのか」と講師はおっしゃる。自分の為に世の中があるわけじゃない。社会とは人間世界。人間は社会的存在なのだ。社会とかかわりながら生きないと自分の価値や評価は定まってこないものだ。「社会に身をさらし、常に自分自身を組み換え続けて変化していくことが、人生の最大の仕事」と。法人としての会社も【進化と変化】が最大の事業と思う。



代表取締役 河面 直

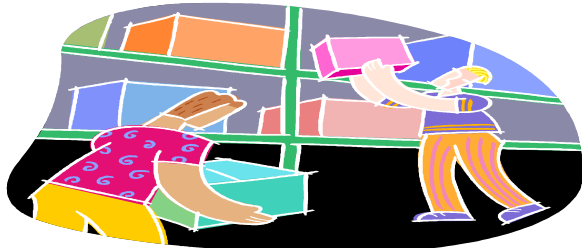


「商品管理事業部」事業を推進していきます。

ワーキングプア、日雇い派遣、派遣切り等、暗くて悪いイメージのある製造・物流現場だが、物流主体の商品管理事業部は【請負事業】へ転換を行っている。リーマンショック以降の派遣法制定の背景は一罰百戒的。非現実的で矛盾も感じることもあったが、むしろ【請負】は顧客の生のノウハウを吸収でき、当社の業務品質を磨くことに繋がると思う。請負である以上物流管理のスペシャリストとして自覚と覚悟を問われることになる。発注側と受注会社はお互い独立しているのだ。ポイントは4つ。

- ① 当社の管理者がスタッフを直接指揮命令すること。
- ② 請負単価が明確で人工や時間給で評価してはならない。
- ③ 作業空間が独立していること。
- ④ 発注側(顧客)の応援は認めない。

実際は多少緩和されているらしい(告示37号)が、構築しなければならぬことが山ほどある。この度、若いスタッフが入ってきた。ベテランも含め、勉強・研鑽の機会を提供していく。自分の能力の引出しを少しでも増やし、成長の肥しにできれば、自ずと未来は開けると信じている。



物流マン点描

当社スタッフ(52歳)

控えめ、穏やかだが、どんな厳しい環境でも忍耐強い芯の強さを感じる。頑張る自分をこよなく愛することが出来る人なのだろう。

先日、冷凍倉庫の違い棚から落下して鼻骨を骨折した。幸い今は復帰して業務に邁進してくれているが、会社の安全管理に落ち度があったことは認めないと思う。再発防止に力を入れます。申し訳ない。ともかく、あんなことがあり、こんなことが起こり...

その度に、この人の誠実な人柄の深さに気づき、啓発されてしまふ。一緒に働くスタッフの連携役としてうってつけだ。

そうそう。落語の小噺じゃないが、「道はまっすぐじゃなきゃだめ。曲がった道があったら、心の中で悔し涙にくれながら歩いていく」、そんな男でもある。

今月のひとこと

自分探しより自分活かし

河面 直

